

今日の説教のポイント <マタイによる福音書5章21~26節>

①「しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』という者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』という者は、火の地獄に投げ込まれる。」(22)

今日の箇所全体に流れている大事なことは、最後の裁きの視点、すなわち、神様の目にどう映っているかを軽んじるな、というイエス様の思いです。この22節にもそれは読み取れます。しかしそれを、「イエスさまも神殿で商売をしていた人たちの机をひっくり返されて怒られた」(21:12)とか、「パウロも、『者分かりの悪い者達』と罵った」(ガラテヤ3:1)とか言って、腹を立てることを場合分けして善し悪しを考えるような方向に向かうと、ここで聞き取るべきことから離れて行きます。イエス様は、ご自分を十字架に掛けた人々から唾吐かれる中、それでも彼らに腹を立てず、見放さず、彼らの罪が赦されるように父なる神様に祈られたのです(ルカ福音書23:34)。イエス様によって祈られた彼らとは、私たち自身なのです！その出来事を知り、その出来事の意味を理解した者にとっては、「腹を立ててはならない」の教えは、もはや簡単に聞き逃したり、別物にしてしまったりすることはできません。むしろ、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの父をあがめるようになるためである」

(5:16)、と主が教えられた行いの一つとして考えるようになるのであり、それは間違っていないのです。

②「だから、…兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、…まず行って兄弟と仲直りをし」(23-24)

「兄弟」と言われていることが重要です。キリスト者となった者たちの中では、こうありなさい、と教えられているのです。そして、確かに、信仰者の兄弟姉妹の中において、「腹を立てない」ことは可能となって行くのです。なぜか？ 主イエスを信じて洗礼を受けた者には聖霊が注がれる、と教えられたからです。主を受け入れて歩み始めた者にも色んなことが起こります。その中で信仰者あるまじき姿を見せてしまうこともあります。信仰者はなにも誤ったこと、愚かなことを全くしなくなった者を指すのではありません。信仰者とは、自分の弱さ、罪深さを知るが故に、主に全てを委ね、頼り、生き出した者をいうのです。そして、その自分に聖霊なる神様が働いて下さることを信じて生きる者をいうのです。信仰の兄弟姉妹は、キリスト者あるまじき姿を見せてしまった兄弟姉妹である彼女に、この神様が働かれることを信じる兄弟姉妹なのです。神様が働かれ、変えられる兄弟姉妹にどうして腹を立てられるでしょう！？ 腹を立てない姿を教会が示すようになるときに、確かに教会は神様を指し示す光を世に輝かしているのです。